

■児童・生徒の学力の状況

- 学習に真剣に取り組む児童が多い。また、自分の考えを表現し、伝え合う活動に意欲的に取り組む児童も多い。
- 他者の考えと自分の考えを比較したり、根拠をもって予想や推論したりすることに苦手意識をもつ児童も多い。
- 児童一人一人の経験や習熟度、家庭環境による学習の習熟度の差が大きい。
- 教科書の図や文章にこだわって読むようになった。
- 辞書を使って定義を確認しながら授業に取り組む児童が増えた。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 一斉指導が中心の授業展開にならないように、児童が主体となる授業づくりに努め、主体的・対話的で深い学びとなるような場面を工夫する必要がある。(一問繋答)
- 教科書の文章と図を結び付けて理解を深めるようにする。(イメージ同定)
- 教科書の指示語や主語・述語に着目して問い返ししながら授業を進めるようにする。
- 既習したことを想起させながら授業を展開することで推論の力を伸ばせるようにする。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、学力を向上させる。そのために、「読み解く力」の育成を目指す。「読み解く力」の育成が全ての教科等における学力向上を支えると考え、「読み解く力」を養うための学習の充実を図る。
- 書くことを重視し、ノート指導の充実を図る。ノートへの記録を徹底し、さらに内容の充実を目指す。
- 学校と家庭との学びの連続性や家庭学習の習慣化を図るため、板橋区家庭学習の手引きを活用して、宿題指導の工夫・改善を行い、基礎学力の向上を図る。
- 授業の導入段階を大切に、児童が意欲をもって取り組むことのできる授業の構築を目指す。
- 授業のはじめに、ねらいを明確につかませ、学習の見通しをもたせる。また、ねらいに対する振り返りの時間を必ず設け、授業で何を学んだのかを分かるようにする。⇒板橋区授業スタンダードの実践。
- 一人一台端末を効果的に活用することで、児童一人一人の学力に応じて、個別に最適化された学習内容を精選し、提供する。
- すべての児童に対して、公平で質の高い教育を実践するために、タブレット端末を活用し家庭と連携を図って児童の学びを止めないようにしていく。⇒SDGs17の目標の④の実践。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間必ずめあてを提示し、そのめあてに正対したまとめを意識し授業をすることで、何を学ぶ時間なのかをどの児童も明確にできるようにする。 ○ふりかえりの視点を学年の実態に応じて明確にし、次時に繋げることが出来るようなふりかえりができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主たる教材は教科書とし、教科書を用いて教科書で学ばせることができるように指導する。 ○教科書を活用し教材分析することで、教科の目標を達成できるように、読み解く力の6つの力を効果的に活用し、より児童の理解が深まる授業ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○探求的な学習(総合的な学習の時間)の内容を3年から6年まで系統性をもって活動し、他者や社会と関わり、自分の疑問を伝えたり相手の話を聞いたりして異学年での交流を深める時間を設定する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
<ul style="list-style-type: none"> ○読み解く力の育成を目指し、基礎的読解力の6つの視点を意識した教科書を用い、教科書で学ばせる研究授業を行う。 ○朝の時間を活用し、スタディアップタイムとして6つの視点に沿った教材を作成し児童に取り組みせる。 ○金曜日の放課後学習教室や夏季補習教室で6つの視点を意識したミニ授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビオトープ、栽培活動を充実させることで、ESDの視点を踏まえた環境教育の推進を図るとともに、月ごとに環境教育と教科を結び付けて年間指導計画の加筆修正を行う。 ○総合的な学習の時間で作成した発表資料を国語の学習と結び付けて異学年で発表する時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動・英語、プログラミング教育についての校内研修 ○GIGAスクール構想や生成AIに関する校内研修 ○一人一台端末やICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示する等、児童の考えの共有化を図る。 ○個別最適化された学習と主体的な学習時間を設ける。